

2. 学習環境を整える

授業（教室）は学校で、児童・生徒が最も長い時間を過ごす場所です。児童・生徒の実態にあった適切な学習環境を作ることは、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業を実現する上で重要なポイントとなります。

すべての子どもたちが、安心して学習や活動に取り組めるように、学習目標を明確にして授業構成を設計するとともに振り返りの時間を設定し、評価のポイントを示す工夫が必要です。また、学習に集中できるように教室内の整理整頓や指示内容、ルールなどの視覚化といった工夫も必要です。

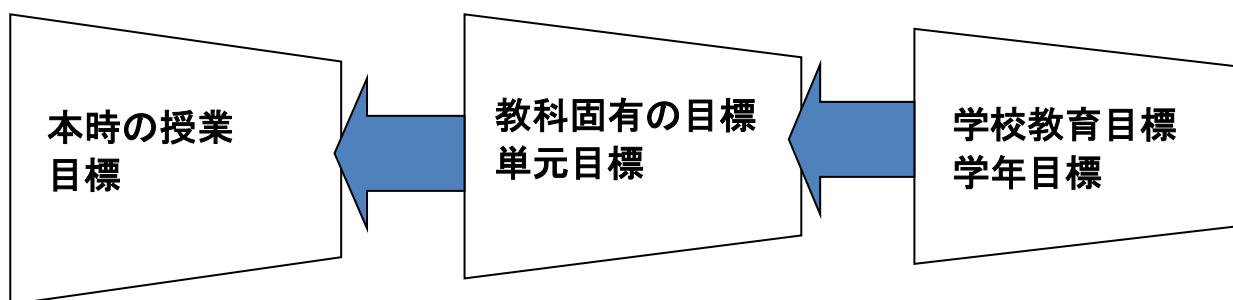
POINTS

① 学習目標の提示と振り返り（指導と評価）

ゴールが不明確なまま授業を進めると、そのことが一因となり、学習に不安を感じ、集中して取り組めなくなる場合があります。児童・生徒が、授業のめあてを明確に意識して学習に取り組めるように工夫することが大切です。また、その時間や單元ごとに児童・生徒自身が学習したことを振り返りその成長を意識することで、学習意欲の向上につながったり、現状を俯瞰することにより、課題解決の力を育てることができます。

【実践例】

- ・ 学習目標について、学校⇒学年⇒単元⇒1時間の授業とゴールから逆算的（バックワード）に考え、本時の目標を設定し提示する。（下図参照）
- ・ 振り返りシート等で児童・生徒が自らの学びの過程を振り返る機会を設けるとともに、評価について、何がどのようにできれば、目標を達成したかを明確に示す。

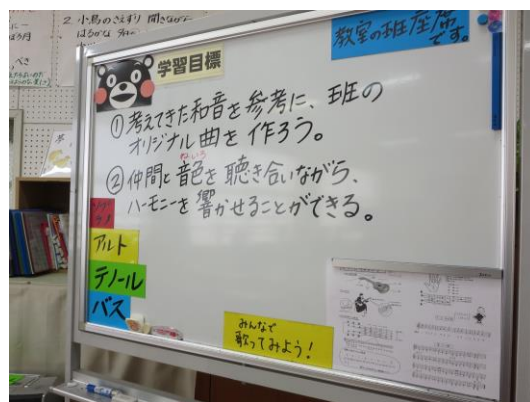
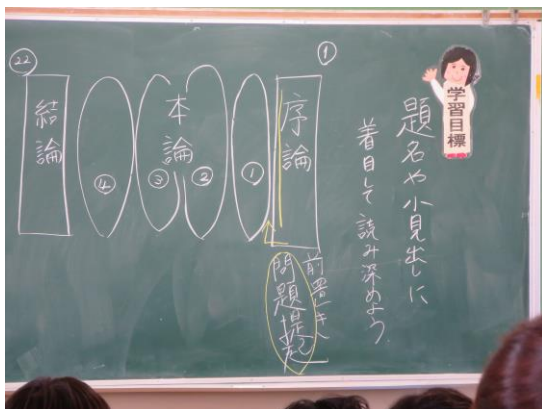


指導と評価

- ① 育てたい力、何を学ばせるのかといったねらいを明確にする
- ② 児童・生徒が主体的に学ぶ、学習の過程を踏まえた授業構成にする
- ③ 児童・生徒が出合った課題を積極的に受け止め、意欲的に向き合うような導入にする
- ④ 児童・生徒がどのように課題に向き合い、課題解決するかを検討する
- ⑤ 児童・生徒同士が考えをつなぎ、考えを深める工夫をする
- ⑥ 児童・生徒が自分の言葉で自己の学びを振り返り、自己評価する工夫をする
- ⑦ 授業を通して児童・生徒のどのような成長をめざすのかを明確にする

学習目標

- 何ができるようになってほしいのか
- どのレベルまでできるようになってほしいのか
- 最後にどのようにしてできたかを評価することを考えて設定する



学習目標が単なる単元名になっていないか等の研究が必要

振り返りシート

「筆者のものの見方や考え方を踏まえて自分の考えを持とう」学習点検表

学習目標	今日の学習	ここを評価します	私に力
1 全文を読み、組み立て（構成）を知ろう。	① 単元の学習のねらいや流れを知り、自分の目標を持つ。	* この単元の目標がわかり自分の目標を持つことができる。	私の目標
2 大切な文を絞り込もう。	② 班で一文ずつ回し読みする。	* 正しく読むことができる。	①
3 序論・本論・結論にわかる。	③ 序論・本論・結論にわかる。	* 内容からわかることができる。	②
4 【持ち物】教科書、ファイル、蛍光ペン2色	④ ②の要点だけを読み、筆者の主張を捉える。	* 自分の言葉で説明ができる。	③
5 作られた「物語」に対する自分の意見を持とう。	① 身近な出来事の中から、作られた「物語」に対する自分の考えを書く。	* 体験や身近な例を根拠にあげ、自分の考えを書くことができる。	④
6 互いに読み合いより良く直す。	② 互いに読み合いより良く直す。	* 友だちの良さを発見し生かすことができる。	⑤
7 学習点検表を完成させ提出する。	③ 学習点検表を完成させ提出する。	* 未記入なく提出できる。	⑥

「松尾芭蕉が旅に求めたものを読み取ろう」学習点検表

学習目標	今日の学習	ここを評価します	私に力
1 松尾芭蕉と「おくのほそ道」について知ろう。	① 単元の学習のねらいや流れを知り、自分の目標を持つ。	* この単元の目標がわかり自分の目標を持つことができる。	私の目標
2 既習の古典を分類する。	② 既習の古典を分類する。	* 正しく分類することができる。	①
3 動画視聴し、家庭学習を交流する。	③ 動画視聴し、家庭学習を交流する。	* 交流から情報を補足できる。	②
4 便覧p94を読み生鑑を知る。	④ 便覧p94を読み生鑑を知る。	* 芭蕉の生涯と旅の関係がわかる。	③
5 1の仮名遣い直し	⑤ 1の仮名遣い直し	* 忘れず取り組むことができる。	④
6 「旅」に向かう芭蕉の心情を読み取る	① 班で1を一文ずつ回し読みする。	* 仮名遣いを正しく直して読むことができる。	⑤
7 1の文から旅に向かう心情を読み取る	② 1の文から旅に向かう心情を読み取る。	* 本文を根拠として理解することができる。	⑥
8 芭蕉が旅立ちにどのような心情で臨んだのか読み取り説明する。	③ 芭蕉が旅立ちにどのような心情で臨んだのか読み取り説明する。	* 心情や準備などを具体的に説明することができる。	⑦
9 「旅」に出た	④ 班で2を音読する。	* 正しく音読することができる。	⑧

学習目標、評価のポイントが明示された振り返りシート（例：国語科）

② 整理整頓された環境を作る

教室の前面（特に黒板周辺）に掲示物等が多く、必要以上の情報があり、どこに注目してよいか分かりにくかったり、雑然とした教室環境で、学習の準備に時間がかかり、すぐに活動に取りかかれない場合があります。児童・生徒同士が対話の中で主体的に課題解決することに集中できるようにユニバーサルデザインの視点での教室環境づくりが大切です。

【実践例】

- ・子どもの実態に応じて、教室の前面の掲示物の量を調整する。
- ・教材や個人の持ち物について、何を、どこに、どのように置くのか定位置を決める。
- ・どこに何があるのか絵や写真を使って示す。



前の黒板まわりはすっきり



定位置を決める

③ ペア・グループ活動が行いやすい環境をつくる

授業の中で、いつでも一斉授業の形からペアやグループになる場合、移動しやすい教室環境を整えておくことが大切です。特に中学校では、どの教科でも取り組めるように全教室で同じ環境を整えることが不可欠です。



教室内で移動しやすくする工夫



グループは4人班が理想的人数

④ スケジュール（時間の流れ）を掲示する

一日の学習の流れやそれぞれの時間に準備する物について、言葉による指示だけでは見通しが持てず、不安で集中できない場合があります。児童・生徒が見通しを持ちながら主体的に学ぶ意欲を持続できるように工夫することが大切です。

【実践例】

- ・ 一日の予定や授業の流れが確認できるよう、ミニホワイトボードに書いて掲示したり、黒板の定位置に掲示する。
- ・ 授業の途中で、「今、何をしているか」「次に何をするのか」を確認できるように掲示する。（授業の内容が分からなくなるきっかけが、どこをやっているか分からない場合がある）
- ・ 予定の変更は、口頭で伝えるだけでなく、見て確認できるようにする。
- ・ 情報量が多い場合は、プリントにして配付する。
- ・ 終わりがはっきり分かるような指示の出し方をする。（時間を区切って、タイマーで時間の経過を示す。「～の5ページまで」「このプリント3枚で～は終わり」と指示する等）



時間の区切りを視覚化

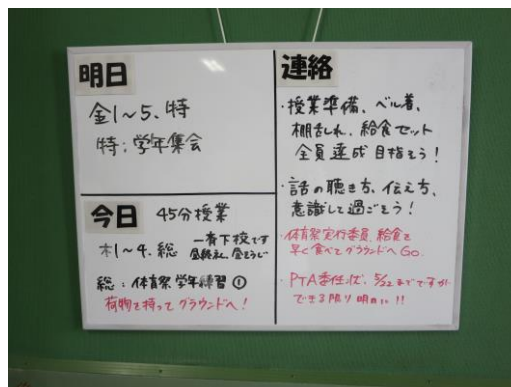
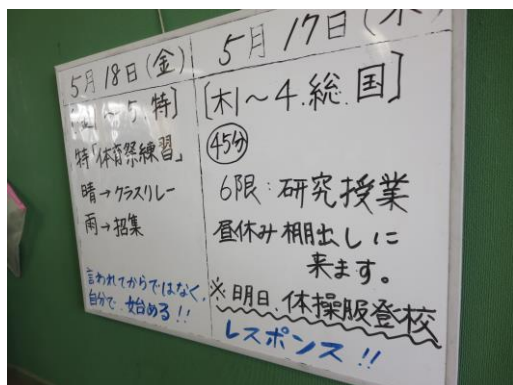
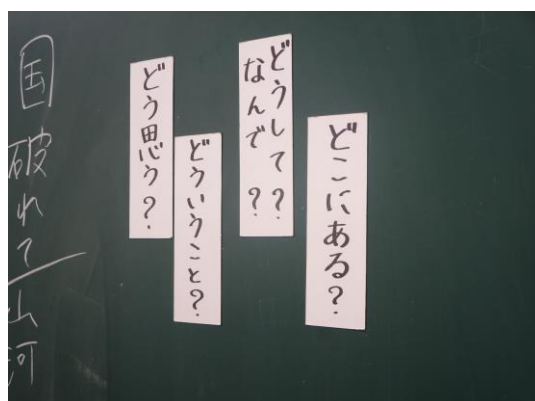
「今、何をしているか」
「次に何をするのか」が分かる

⑤ 指示やルールを視覚化する

学習や活動に取り組む際、教職員の指示や、決められたルールがうまく理解できずに失敗し、自信を失くしてしまう児童・生徒がいます。指示やルールの理解を助ける工夫を行うとともに、日々の学習や生活の中で成功体験を積み重ね、児童・生徒どうしが、お互いのよさを認め合えるように配慮することが大切です。

【实践例】

- ・学級の実態を踏まえて、教科の特性に合わせた学習活動のきまりを抽象的な表現ではなく、具体的に表現し、掲示する。
- (学級担任と教科担当で学習時のルールが大きく異なることがないように、年度当初はもちろん、日頃の連携を大切にする。)
- ・思考やコミュニケーションの助けとなるカードを準備し、必要に応じて提示する。



指示やルール、時間の流れや見通しがわかると安心して学びに没頭できる